

Company Overview

会社概要

商号	ニッセイエブロ株式会社 [英文表記/NISSEI EBLO INC.]
設立	1950年2月(創業/1944年6月)
資本金	9,000万円
代表者	代表取締役社長 亀田 修平
従業員数	55名
事業所	本社 〒105-0004 東京都港区新橋5-20-4 TEL.03-5733-5151 FAX.03-5733-5161 http://www.eblo.co.jp/



History

沿革

昭和19年(1944)	亀田英二が個人営業として千代田区神田和泉町に日本青写真工業社を創業
昭和22年(1947)	株式会社日本青写真工業社として発足
昭和25年(1950)	日本青写真株式会社設立
昭和26年(1951)	株式会社日本青写真工業社および日本青写真株式会社合併
昭和27年(1952)	マイクロ写真部を設置
昭和32年(1957)	印刷部を設置
昭和46年(1971)	港区西新橋に本社ビル竣工、本社を移転 社名を日青工業株式会社と変更
昭和59年(1984)	港区西新橋に本社第二ビル竣工 制作部を設置
昭和60年(1985)	企画・デザイン部門設置、映像制作業務を開始
昭和61年(1986)	亀田修平が代表取締役社長に就任
平成元年(1989)	CI導入、社名をニッセイエブロ株式会社に変更
平成11年(1999)	Web制作・システム開発事業を本格的に開始 情報公開法公布に伴い、文書管理業務を開始
平成13年(2001)	港区新橋に本社ビル竣工、本社を移転
平成15年(2003)	ISO14001を取得
平成18年(2006)	プライバシーマークを取得
平成20年(2008)	コンプライアンス態勢発足
平成21年(2009)	内部通報制度スタート
平成22年(2010)	国連グローバル・コンパクトへの参加

Approach on CSR

CSRへの取組み

社会の成熟化、情報技術の飛躍的な進展に伴い、
企業は、自身を取巻く様々な環境と無縁ではいられなくなりました。
企業は自身の利益のみを追求するのではなく、自身を取巻く環境と共に共生していかなければなりません。
小さくとも社会に必要とされる企業を目指し、
私たちを取巻く社会と積極的に関わり、その責務を果たしていきたいと思ひます。
私たちは、事業の社会的責務である情報資産の管理や、持続可能な社会のための環境保全、
そして次世代を担う若者の育成などを通じて社会に貢献しています。

グローバルコンパクトへの参加

ニッセイエプロ株式会社は、CSR活動に積極的に取組む上で国連の提唱する企業の自主行動原則である『グローバル・コンパクト※1』への支持を表明。当社社長による書簡を国連事務総長に提出、受理され、2010年1月6日付で国連グローバル・コンパクトへ正式に参加しました。
今後は、国連グローバル・コンパクトの10原則を社内外に浸透・周知させるよう努めるとともに、10原則に関する当社の取組み状況を積極的に公開してまいります。

コンプライアンス(p7.8)

2008年、コンプライアンスに関する態勢を整備するとともに、その一環として、社員一人ひとりが特に留意すべき事項を「企業倫理綱領」(企業倫理規範及び企業行動基準)としてまとめました。

情報セキュリティ

個人情報をもとより、情報資産全体を厳格に管理すべく、ISO27001/ISMSの認証取得に向け、マネジメントシステムを現在、構築中です。

法規制遵守(p.9)

個人情報保護法を遵守するために、プライバシーマークを取得。その他、各法規遵守に基づいた社内規定等も制定し、対応しています。

環境保全・環境配慮

2002年にISO14001を取得。当初は「紙・ごみ・電気」の低減目標の遂行からスタートし、9年目を迎える現在では、事業と連動した目標を設定。顧客企業様に向けてICTやCSRによる環境配慮サービスの提供に向けて、マネジメントシステムを運用、取組んでいます。

社会貢献

国際貢献活動である「エコキャップ運動」に賛同し、キャップを集めてワクチンの寄与支援の活動を行っています。また、カラーユニバーサルデザイン機構※2の賛助会員となり、企業のコミュニケーション活動におけるカラーユニバーサルデザインの推奨を行っています。

活力ある職場づくり(p.9)

部門間、各部内において社内情報の共有は私達の生業から見て、最も重要な活動です。福利厚生の実施も含めて、やりがいのある職場作りを目指しています。

次世代の人材育成支援(p.6)

2008年より継続している、ECO REPORT WAY 21、またこのCOP制作をはじめ、大学との連携を深めながら、次世代を担う人材育成の支援を行っています。

社員の
社会に対する関心の醸成

社員の
仕事に対する誇りの醸成

社会に対する責任のある行動

より良い企業市民へ

※1:1999年に、コフィー・アナン国連事務総長(当時)が提唱し、2000年に国連本部で正式に発足した、持続可能な成長を実現するための自発的な世界的枠組みです。賛同する参加企業は責任ある創造的なリーダーシップを発揮し、トップのコミットメントのもと、「グローバル・コンパクト10原則(人権、労働基準、環境、腐敗防止)」と「ミレニアム開発目標」の実現に向けて努力を継続することを求めています。

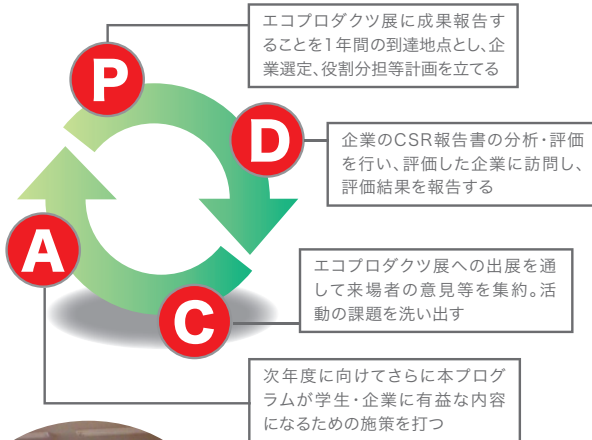
※2:社会の色彩環境を多様な色覚を持つさまざまな人々にとって使いやすいものに改善してゆくことで、「人にやさしい社会づくり」をめざすNPO法人。社会環境の色彩設計をする個人や企業、団体に対し、設計する側の意識を喚起し、結果として実社会の色彩環境が色弱者のみならず多様な色覚を持つ一般市民にとっても、より配慮されたものに改善していくことを目的に設立された特定非営利活動法人です。社会の色彩環境を多様な色覚を持つさまざまな人々にとって使いやすいものに改善してゆくことで、「人にやさしい社会づくり」を目指しています。

ニッセイエプロ株式会社はCSR活動の一環として「次世代の人材育成支援」を行っています。その中の一つである「ECO REPORT WAY 21」を紹介いたします。

<http://www.ecoreport.jp/>



ECO REPORT WAY 21 産学連携による「WIN-WIN型 教育プログラム」



2008年より、企業からご提供いただいた「CSR・環境報告書」を次世代の主役となる20代の若者（学生）たちが丹念に読み解き、「21の指標」をもとに分析・評価しています。分析・評価結果については、レポートにまとめ、学生が企業に訪問し、報告とともに意見交換する場を設けています。

企業が未来に向けて「環境意識の高い人材」を育むことは、「人」に焦点を当てた、「CSR」の一つと考えます。学生にとっては、企業との接点を持つことにより、より実践的な活動機会を得ることができます。また、この活動では、自ら考え、行動するPDCAサイクルの実践により「自律型人材への成長」を目指しています。



大学内での取組み



2009年
エコプロダクツ展

ECO REPORT WAY 21による

学生のWin

- 日頃の研究を実践できる機会
- コミュニケーションスキルの向上
- 自身の就職活動等に向けた企業研究
- 企業で働く人々との交流
- エコプロダクツ展への出展、プレゼンテーション

企業のWin

- 現報告書の有効活用、読者数の拡大
- 学生の企業に対する理解の向上
- 次世代の人材育成という社会貢献
- 報告書制作や活動改善の参考
- 企業が欲しい人材の発見

有意義な活動内容に惹かれ入りました。

授業内での発表を聞き、自分も大勢の人の前でこんなに堂々と発表したいと思ったのが、このプロジェクトに興味を持ったきっかけです。また活動内容も、学生のうちに企業の方と直接お話しをする機会がとても有意義なことであり、魅力的に感じました。将来のために自分を成長させてくれる場だと思い、このプロジェクトに入りました。



武蔵野大学
環境学部 2年
小野 弘祐 (次期リーダー)

授業では学べない企業の環境活動を知れました。

環境学科生として授業でも環境について勉強していますが、それを実践的に学ぶ場はなかなかありません。この活動では、報告書を読むことで企業が行っている環境活動や法令について知ることができ、授業で学んだ内容もアウトプットすることができます。また、興味のある業種の環境政策についても深く知ることができ、自分の将来について真剣に考えるようになりました。

さらに上を目指し、貪欲に進みたい。

プロジェクト全体の目標は、先輩たちが築き上げた実績をさらに上回る様、貪欲な気持ちで活動したいと考えています。企業に訪問するだけでなくエコプロダクツ展で自分たちの活動を一般の人にアピールできるので、そこで第三者の意見をいただき活動に反映させたいと思っています。また、自分自身、より環境や社会の知識を深め、卒業後にその知識を活かせる様な活動をしたいと考えています。企業の方とお話をする機会も多いので、マナーをしっかりと身につけて社会に出ても恥をかかない社会人になりたいです。

武蔵野大学 環境学部「ECO REPORT WAY 21」の
学生メンバーとともに。

正直、はじめは、どうなっていくのか???と言う場面の多い取組みでした。キックオフ当時は、学生の皆さんも慣れない中、大変だったと思います。現在、三年目となり、先輩から後輩へと継承され、矢内学部長、佐々木教授のもと、彼らは自律的に考え、行動できるようになっています。一方、企業のご協力も頂き進めてきた中、企業担当者からも多くの好評を得ています。また、学生のモチベーションも高く、教授からも日頃、大学で学んでいる事を、このような機会が発揮できる場合は、キャリア教育の面でも有効であると言葉を頂いています。



ニッセイエプロ株式会社
伊関 直人

学生というと社会人からは、兎角「まだ何も分かっていない」等と言われがちです。しかし、それは私たちが学生だった時も、同じであり、企業の色に染まっていないからこそ、まっすぐに考え、意見できることも多いと知りました。企業にとって将来のステークホルダーになりうる彼らの視点は、時に企業に身を置く側にとって、気がつかないことを教えられたりすることもあるようです。

このECO REPORT WAY 21が企業と学生にとって、さらにWin-Winな取組みに発展させていきたいと願っています。これからも次世代を担う学生の「まっすぐな」心意気に、エールを送りつつ、私たちが取り組んでいきます。





COMPLIANCE コンプライアンス

私たちが「より良き企業市民」として社会に貢献していくためには、その大前提として法令・社会規範・倫理を遵守することが求められます。企業活動におけるコンプライアンスとは、そこで働く社員一人ひとりの行動の積み重ねであり、社員全員が法令遵守することは当然のことと考えられます。さらに、当社の企業理念を実現し、様々なステークホルダー（利害関係者）と共生していくため、社是、信条に則り、企業倫理規範に基づいて行動しております。

社 是

我々は仕事を通して成長し
仕事を通して
豊かで充実した人生を送ります

信 条

原則原理を重んじる

原則原理は全ての事象に適用することができ、全ての変化に対応できます。

信用を大切にす

信用こそが第一の経営資源であり、これを保ちつづけることが、未来を確かなものにします。

変化を恐れず、怠らず

めまぐるしく変化する外部環境を常にウォッチし、柔軟かつ迅速に対応していきます。

チャレンジ精神を持ち続ける

挑戦者の精神で、常に新しい発想と変革意識をもって取り組んでいきます。

堅実経営を心掛ける

短絡的な利益の追求ではなく、長期的な視点に立って持続可能性をめざします。

会社の品格を大切にす

私たちを取り巻く「つながり」を大切に、本業を通じて誠実に「社会」へ貢献していきます。

企業倫理規範

高い倫理観をもって、法令その他の社会規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行います。

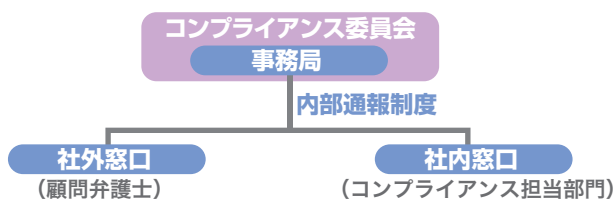
優れた製品・サービスの提供を通じて社会に貢献します。

社員の品格・個性を尊重し、ゆとりのある豊かな職場環境を実現します。

ステークホルダーの立場を尊重し、共生を図っていきます。

環境の保全と豊かで住みやすい社会づくりに貢献します。

コンプライアンスの態勢について



コンプライアンスの徹底を図るために、コンプライアンス委員会を設置いたしました。

この体制では、不正の恐れを感じた場合に安心して通報するために社外・社内の両方に窓口を設置しております。電話やメール等の様々な方法で通報でき、どの手段においても匿名性が守られるよう徹底しております。

研修制度について

コンプライアンスの周知徹底を図るために、教育研修を実施しております。弁護士の方を講師にお招きし、役員に向けて研修を行ったほか、全社員に向けて契約・販売・債権回収について研修を行ってまいりました。こうした研修を行うことで、会社が経営課題としてコンプライアンスを重要視していることを社員に示すことができ、コンプライアンスの徹底を図ることができます。

コンプライアンスの周知徹底

法規範はもちろん、社会規範も重んじる、意識の高い社員を育成しております